



カトーレック EMS事業拡大

東南アジアの工場を増強

カトーレックは、各生産工場を同一品質、同一サービスを提供する「グローバルプラットフォーム」に位置付け、EMS（電子機器製造受託サービス）事業を拡大している。受託生産の拡大に対応してベトナム、インドネシア両工場を増築したの続き、フィリピン工場も拡張した。

同社はEMS事業とロジスティック事業を展開しており、EMS事業が売り上げの70%を占める。国内（高松・本社工場、松山）、中国（蘇州、広州）、ベトナム、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、メキシコ（ティファナ、グアナファト）に生産拠点を設け、2018年6月にはインドのプネーにも現地企業と合弁で製造会社を設けた。基板実装を中心として受託する製品は家電、AV、車載、情報通信、住宅設備機器、産業機器、医療機器、航空・宇宙機器まで幅広い。



加藤 社長

車載ではカーナビ、パワーウインドー、ヘッドライト、バッテリーセンサー、ETCなど幅広い生産を行っている。日系企業の受託が多いが、中国では車載などで現地企業からの受託も増えている。加藤英輔社長は、EMS事業について「半導体や電子部品、材料などが不足し、調達に苦労しているが、コロナ禍ながらも製造受託は順調に推移している」と話す。生産増強を進め、ベトナム工場第2棟は20年6月、インドネシア工場第4棟は同4月に完工、稼働した。ベトナム工場は05年から稼働しているが、2棟の完成により、第1棟と合わせて延べ床面積約3万6000平方メートルに拡張し、生産能力を増強した。

インドネシア工場は、1993年に同社グループ初のEMS海外拠点として稼働。基板実装から完成品組み立てまで幅広く対応するため、第3棟まで拡大してきたが、新たに第4棟の完成により、合わせて延べ床面積約2万2000平方メートルに拡張して生産能力を高めた。フィリピン工場は第1棟が97年から稼働し、00年に第2棟を増築し、顧客のさまざまな要望に対応してきた。新たに今年6月に第3棟が完工した。これによりフィリピン工場の延べ床面積は合わせて1万7130平方メートルとなり、生産能力をさらに増強した。

加藤社長は「既存企業からの受託が増えていくことに加え、新規の案件も増えていることから、生産体制を増強した。中国からベトナムなど東南アジアに生産をシフトする動きも続いている。今後の受託に応じて製造設備も導入していく」と話した。各工場は、多品種少量生産に対応するフレキシブルな生産体制と、世界いずれの工場でも生産しても同一品質、同一サービスを提供している。今後のグローバルプラットフォームに位置付けている。生産技術力を高めるために、各工場間の技術交流を積極的に進めている。実装機などの生産設備も最先端を導入しつつ、既存設備とのバランスを取りながら高品質生産と目指している。加藤社長は「ASEAN各国でEMS事業を始めて約30年になるが、その間に人件費も上がっている。このため省人化のために工場の自動化、スマート化にも取り組んでいる」と述べている。

